我が国におけるスポーツ集団の性質と問題性に関する一考察
～学生スポーツにおける寮制度に着目して～
A study of the characteristics and issues on sports groups in Japan
~ Focus on the institution of dormitory for student athlete ~

1K09A144-1　　田澤　範樹
指導教員　主査 友添秀則 先生　　副査 宮内孝知 先生

【動機･目的】

今日の日本のスポーツ界において、学生スポーツ界が担う役割は非常に大きいと思われる。先日開催されたロンドン五輪においても、各競技において学生アスリートの活躍が注目されたことは記憶に新しい。世間の人々は彼らに対して、華やかであることや、良き人格者であることを期待していることが多い。そのため、時折の学生アスリートの不祥事には多くの注目と批判が浴びせられる。そのような競技スポーツに勤しむ学生アスリートのほとんどが学校の運動部活動・クラブに所属し、その活動に関わってきている。このような活動の場である「スポーツ集団」は、必ずしも彼らに良い影響を与えているのであろうか。ここに、スポーツ集団の内実を明らかにし､その問題性を指摘する必要があるはずである。

そこで筆者は、自らの生活の現状でもある大学の体育会部活動におけるスポーツ寮の制度に着目した。陸上競技とりわけ箱根駅伝における活躍を目指した学生アスリートが、共同生活を営んでいる寮生活の実態から、我が国のスポーツ集団の性質や構造について明らかにし、その問題性について考察する。

【方法】

本研究は、関連文献の講読により進める。また、現在のスポーツ寮の制度については、箱根駅伝強豪校と呼ばれるものから筆者が任意に抽出し、具体的な事例に関する資料の分析をもとに考察を行う。

【第 1 章】

第 1 章では、我が国のスポーツに対する価値意識を､「日本的スポーツ観」に関する先行研究から概観することから始めた。そこでは､「精神主義｣､「自虐主義｣､「修養主義」または「勝利主義」といったスポーツ観が、日本人のその一部には確かにみることができる特徴であることを明らかにした。そして、我が国のスポーツ集団には、これらの精神性を基調としたものが多く、その構造にタテの社会を基盤としていることから、これらのスポーツ集団の性質によって引き起こされる問題性について、学生運動部の不祥事における具体的な実例から、その問題の実態について明らかにした。

【第 2 章】

第 2 章では、第 1 章で明らかにしたスポーツ集団における問題性と寮生活との関連性を探るために、英国のパブリックスクールと我が国の旧制高等学校における寮の制度に着目し、スポーツ集団と寮生活との関係について明らかにした。すなわち、パブリックスクールの寄宿寮における「監督生制度｣、「Prefect-fagging 制度」を基盤として形成された集団内の人間関係の実態について明らかにし､さらに、旧制高等学校において第一高等中学校を起源とした学生自治寮の制度とその生活の実態と校友会における運動部が内包する武士的エートスが形成する集団内の社会構造との関係について明らかにした。

【第 3 章】

第 3 章では、スポーツ集団の内部構造について、その基盤がタテ社会の人間関係となっていることから、スポーツ集団内の封建的上下関係に着目し、そこに見られる問題性について明らかにした。具体的に学生スポーツのなかでも、特に箱根駅伝に携わる学生アスリートが共同生活を行うスポーツ寮の制度と生活の実態について明らかにした。そして、その寮の制度と生活環境がスポーツ集団の問題性を固持・醸成させる温床として機能している可能性について明らかにした。

【結章】

結章では、本研究のまとめ及び結論として、我が国のスポーツ集団が、日本的スポーツ観を内包することにより、その集団内の構造や人間関係から引き起こされる問題性について、封建的上下関係という観点からまとめた。そこで、その封建的上下関係において見出される全人格支配的な人間関係の危険性は、スポーツ寮の制度や生活のなかで再生産され、より堅固にされている可能性があるという考察に至った。また、今後の課題として、他の競技種目、他の年齢層におけるスポーツ寮から、スポーツ集団における問題性に関する考察の余地を提示した。